

景観学習プログラムの概要

景観学習プログラムは、指導者向けの「景観学習の手引き」と、子ども向けワークブック「わたしたちの暮らしと景観」の2点で1セットです。
 景観学習プログラムは、道内各地で地域や学校が主体となって景観学習を実施する際の参考資料として活用してもらおうものであり、具体的には小学校高学年「総合的な学習の時間」で活用することを想定したものです。

＜景観学習のねらい＞

- ①身のまわりの景観や生活環境について興味や関心を持てる
- ②景観は私たちの暮らしや営みと深く結びついていることを理解できる
- ③地域の景観をみんなの共有の財産として大切にできる
- ④景観づくりの担い手として自ら考え、行動できる

景観：私たちの生活や産業の営みが、まちや自然の環境と重なり合っているもの

ほかにもこんな題材を扱って・・・

- 自分の家から学校までの身近な風景を思い浮かべ、印象の強いものを紹介し合い、景観の要素として考える
- 校歌の歌詞を題材にして、自分の住む土地の景観要素(山、川、風、光など)について考える
- 自分の住んでいるまち、地区の名前を題材に、どんな由来があるのか、どんな思いが込められているのかを考える

みんなの調べたことを共有し、これからのことを考えよう

景観学習の手引き (指導者用)

1. プログラムのねらい
2. プログラムの構成と使い方
3. 参考プログラムの展開例

ステップ1
投げかけ・導入
 ・住んでみたいまちはどんなまち？
 (写真を使って)

ステップ2
発見
 ・気になる景観を探してみよう
 (まちウォッチングを通じて)

ステップ3
探究
 ・暮らしの中の景観をもっと調べてみよう
 (「なぜ?・なに?取材班」を通じて)

ステップ4
まとめ・評価
 ・みんなで住みよい、すてきな景観をつくるには?
 (PRポスターづくりを通じて)

【資料編】

- ＜景観学習の取組事例のご紹介＞
- 景観学習の活用～江別市立大森西小学校の取組
 - 網走市立呼人小学校
 - 鹿追町立荻川小学校
- ＜プログラムづくりのためのアイデア＞
- 投げかけ、導入時の話題提供のためのアイデア
 - 景観学習と各教科との関連づけのためのアイデア
- ＜「景観づくり」のことをもっと知るために＞
- 景観に関する行政(北海道、国、市町村)の取組
 - 道内各地の景観づくりの取組事例
 - ワークブック掲載写真の解説
 - 景観関連ホームページリンク集

景観学習に関するいろいろな情報を載せています

連動

わたしたちの暮らしと景観 (子ども向けワークブック)

「景観学習の手引き」の各ステップに連動したワークシートや写真素材、作業のヒント集により構成

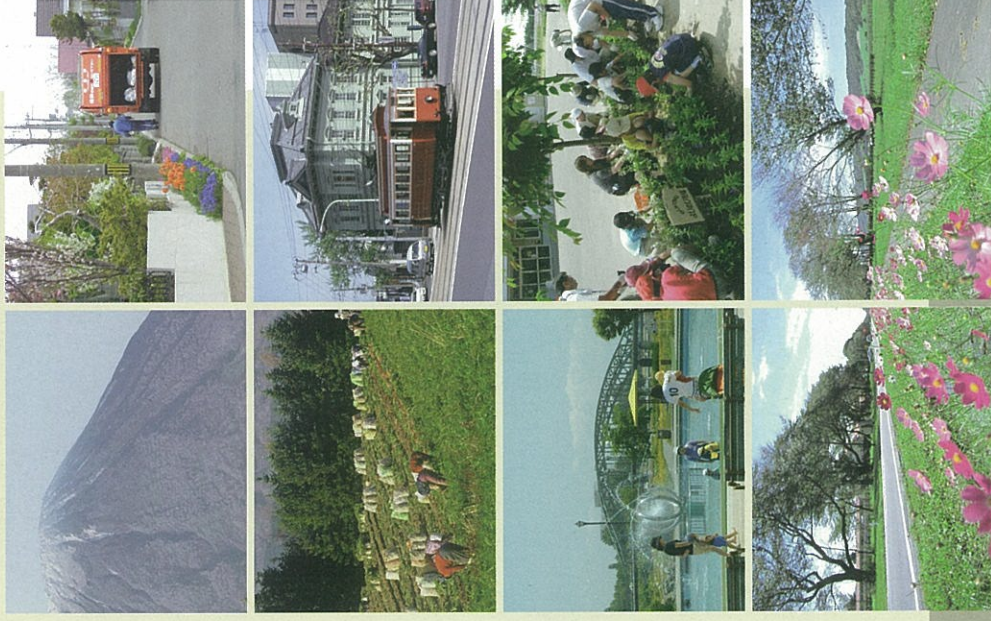
【内容】

- 1 住んでみたいまちはどんなまち?
- 2 まちの中の気になる景観を探してみよう
- 3 暮らしの中の景観をもっと調べてみよう
- 4 みんなで住みよい、すてきな景観をつくるには?

【参考】取材の企画(なぜ?・なに?)をまとめるヒント

まちの自然、まちの歴史、産業や交通など、まちごとの特色などに応じてヒント集を整理

人々と自然・まちとのかわわりが現れたさまざまな景観の写真を掲載!
 例) 日々の営みによる景観づくり(農村景観) シンボルロードに花を植える活動



子どもたちがテーマを見つけるのに最適!

景観学習は、目に見える身近なものを扱うので、子どもたちがテーマを見つけやすく、自発的に取り組みやすいのが特徴です。

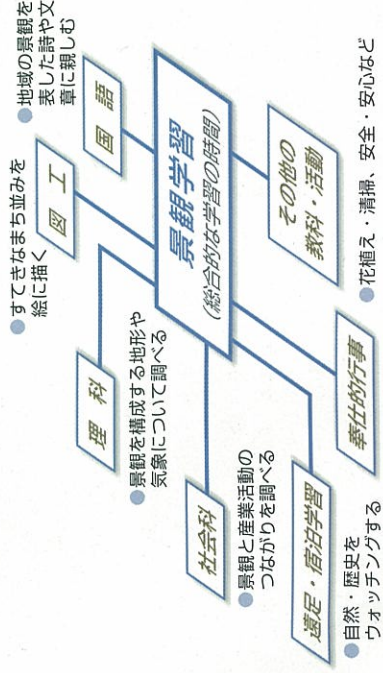
遠足や現地学習で印象に残ったまち並み、日ごろ親しんでいる商店街や祭りにぜひ、散らかったごみ置き場などに子どもたちが目を向けられれば、景観学習はすぐにスタートできるのです。

総合的な学習の時間などに活用できる!

景観学習プログラムは、総合的な学習の時間のねらいとする「自ら課題を見付け、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」などに迫ることができます。

対象学年は、小学校高学年です。低中学年でまちや自然にふれたあとで、「自分たちもまちのことをもっと調べてみよう」といった発展的な位置づけで取り組んだり、これまでの地域や環境を扱った学習に景観の視点を取り入れることもできます。

また、社会科や理科、国語、図工などほかの教科や遠足等の特別活動とも関連づけやすい学習です。



地域を見つめるまっかげづくりに最適!

景観学習を進めることで、地域の景観と、私たちの暮らしや営みが結びついていることが見えてきます。

まちをウォッチングしたり、分からないことを地域の大人たちに質問したり、自分たちが調べたことを発表したりすることが、地域を見つめるきっかけとなります。